



富士山はなぜ冬によく見えるの

冬の太平洋側に、北西の乾燥した風がふくから

冬は、大陸からシベリア高気圧がはり出してきました。シベリア高気圧からふいてくる、冷たい乾燥した北西の風は、日本海をわたるときに暖流の対馬海流の上を通り、そのときに、たくさんの水蒸気をふくんだ雲をつくりま

す。この雲が、日本の中央にある山脈にぶつかって、日本海側に雪を降らせま

す。北西の風は、日本海側で雪を降らせた後、乾燥した強い風として、太平洋側にふきつけま

す。空気中に水蒸気やほこりが多いと、光が散乱して遠くが見えにくくなります。冬になると、富士山のある太平洋側には、乾燥した強い北西の風がふき、晴れた日が多くなり、空気中の水蒸気やほこりが少なくなります。それで、まわりの空気がすんで、富士山がよく見えるようになります。

ほかの季節は雨が多い

春には、かすみがかったり、春の長雨が降り続くときがあります。6月中ごろから7月中ごろにかけて、北海道をのぞいて、くもりや雨の日が多くなります。これが「つゆ」です。

夏の日本は、太平洋高気圧におおわれます。太平洋高気圧からふき出す、高温で湿った空気

で、むし暑い日が続きます。ときには、かみなりをともなった、にわか雨が降るときもあり

ます。また、9月になると、雨が降り続くときが多くなります。

このように、日本の太平洋側では、雨の日が多いこと、冬に比べて空気中の水蒸気が多い

ために、冬に比べて、富士山がはっきり見えないのです。（監修・村山 貢司）

